

在セネガル大使館月報(2019年2月)

主な出来事

【セネガル】

(内政)

- 24日、大統領選挙第1回投票が平和裏に実施された。選挙監視団を派遣した米国、EU、ECOWASは、選挙は透明性の中で平和裏に実施されたと評価した。
- 28日、デンバ・カンジ国家投票審査委員会委員長は、2019年大統領選挙第1回投票の暫定結果を発表し、マッキー・サル候補(現職大統領)が有効投票数の過半数である58.27%を得票したと発表した。

(外政)

- 2月2日、仏軍艦艇「ミストラル」も参加し、仏軍とセネガル軍合同でダカール沖にて海上警備が行われた。

【ガンビア】

- 19日から22日にかけて、ビオ・シエラレオネ大統領は国賓としてガンビアを訪問した。両大統領は、二国間関係を強化すること及び国連安保理にアフリカの国が代表されるべきとの考えで合意した。

【ギニアビサウ】

- 国民議会選挙に候補者が立候補する政党は、コナクリ合意の一部である「政治安定協定」を署名した。同協定では、署名政党は、国民議会の選挙結果の尊重、コンセンサスによる統治と各種改革を約束した。

【セネガル】

(内政)

内政一般

- 特になし。

2019年大統領選挙関連

- 3日、大統領選挙キャンペーンが開始された。また、政見放送(各7分)が国営放送局RTSにて放送され、各候補はマニフェストを紹介したほか、イドリサ・セック候補は、司法の政治利用を批判し、司法の独立を実現すると訴えた(4日 RFI他)(往電第149号)。
- 5日、ワッド前大統領は、公表した動画の中で、サル大統領は有力野党候補であるカリム・ワッド元大臣とハリファ・サル元ダカール市長を排除し、選挙を操作したと非難し、選挙実施を阻止する旨述べた(6日 Le Soleil, WalfQuotidien)(往電第183号)。
- 7日、ワッド前大統領は、セネガルに到着し、空港から沿道には多くの支持者が集まった。タノール・ジャン地方高等評議会(HCCT)議長は、元大統領は国の不安定化を煽らず平和が保たれるよう行動すべきであるとワッド前大統領の言動を批判した(7日 Sud Quotidien, 8日 Le Soleil他)(往電第183号)。
- 8日、ハリファ・サル元ダカール市長は、イドリサ・セック候補を支持すると表明した(8日 RFI)(往電第209号)。
- 9日、ウスマン・ソンコ候補は、ダカールにてワッド前大統領と面会した。同候補は、選挙プロセスの透明性について協議したと述べた。一方、ワッド前大統領は支持する候補を明らかにしなかった(10日 RFI)(往電第209号)。

- 12日、タンバクンダ地方検察は、11日のサル大統領支持者及びイッサ・サル候補支持者の衝突は、イッサ・サル候補支持者がサル大統領の選挙ポスターを取り除いたことに端を発し、結果2名が死亡したと発表した。1名については、イッサ・サル候補の護衛により刺殺、他1名についても同候補の車列に轢かれ死亡したとし同候補護衛の24名に対して取り調べを実施している旨発表した(13日 Le Soleil, WalfQuotidien) (往電第209号)。
- 13日、ワッド前大統領は、PDS党執行委員会に出席し、支持者に対し、投票日に投票所に行き投票用紙を燃やすよう呼びかけ、選挙を阻止したい意向であると述べた(14日 Le Témoin)。一方、PDS党の多くの支持者は同前大統領の方針に賛同していない(14日 RFI) (往電第209号)。
- 14日、ゲイ政府報道官は、法による統治が確立しているセネガルにおいて、法規が踏みにじられることは容認せず、ワッド前大統領による暴動・暴力への呼びかけを断固非難し、セネガル国民の投票権の阻害を試みる者は法に則り罰される旨の声明を発出した(15日 Le Soleil) (往電第209号)。
- 15日及び16日、コンデ・ギニア大統領の招待で同国に滞在しているワッド前大統領は、コンデ大統領と懇談した。PDS党スポーツマンは、ワッド前大統領とコンデ・ギニア大統領との面会にて、コンデ大統領は大統領選挙が平和裏に行われるよう望むと述べ、ワッド前大統領は選挙実施には反対するものの平和的に反対運動を行っていくと述べた旨紹介した(18日 L' Observateur, 19日 Le Témoin) (往電第236号)。
- 15日、サル大統領は、セネガルは法による支配が確立した国であり、投票が安全に実施されるよう必要な措置を取る、誰も選挙実施を妨害することはできないと述べ、国民に投票を呼びかけた(16・17日 L' Observateur) (往電第236号)。
- シセ選挙総局広報部長は、2月8日時点で引き取られていない選挙カードは、約21万3千部であり、国内の有権者は投票日前日まで、在外有権者は投票日まで選挙カードを引き取ることができる旨述べた(19日 Le Quotidien) (往電第236号)。
- 18日、共和国検事は、11日にタンバクンダで発生したサル大統領支持者とイッサ・サル候補支持者の衝突により2名が死亡した事案に関して、同サル候補の護衛3名を殺人の罪で訴追したと発表した(20日 Le Soleil)。
- 19日、大統領選挙に出馬した野党候補4名の代表は、司法独立のための市民社会プラットフォームが提言し、大統領と司法大臣の司法官職高等評議会への出席権廃止を内容とする司法改革に係る覚書に署名した(20日 SudQuotidien) (往電第236号)。
- 仏語圏国際機関は、セネガル大統領選挙第1回投票に際して、19日から26日まで、トロボアダ元サントメ・プリンシペ首相を代表とする選挙監視団を派遣すると発表した(20日 Le Soleil) (往電第236号)。
- 24日、大統領選挙第1回投票が平和裏に実施された(24日 RFI)。同日未明、ジョヌ首相は、今後暫定結果が発表されると前置きしつつ、現在までに入ってきた情報に基づけば、マッキー・サル候補(現職)が少なくとも57%を得票して第1回投票で当選したと発表した(24日 RTS)。一方、野党側はこれに反発し、24日未明に共同会見を開いたイドリサ・セック候補とウスマン・ソンコ候補は、政権側が投票結果を操作していると批判し、支持者に対し、第2回投票に向けた用意をするよう呼びかけた(24日 RFI) (往電第245号及び同第247号)。
- ヤイECOWAS選挙監視団長(元ベナン大統領)、バレンシアーノEU選挙監視団長(EU議会議員)、在セネガル米国大使館は、大統領選挙は透明性のある中で平和裏に実施されたと評価した(26日 WalfQuotidien, 26日在セネガル米国大使館HP, 27日 RFI) (往電第252号及び同第259号)。

- 28日、デンバ・カンジ国家投票審査委員会委員長は、2019年大統領選挙第1回投票の暫定結果を発表し、マッキー・サル候補(現職大統領)が有効投票数の過半数である58.27%を得票したと発表した。野党候補4名は共同声明を発出し、「本日、国家投票審査委員会により発表された暫定結果は、完全にサル大統領に命じられたものであり、我々は同暫定結果の受け入れを断固拒否するが、憲法評議会への不服申し立ては行わない。」旨表明した(28日 RTS)(往電第272号)。
- 28日、2019年大統領選挙の暫定結果に抗議する学生がダカール大学周辺にて投石等を行ったため、治安部隊が催涙ガスを使用し鎮圧し、大きな混乱には至らなかった(28日 Seneweb)(往電第282号)。
- 28日、暫定結果発表を受け、エルドアン・トルコ大統領、モハメッド6世モロッコ国王、アクフォド・ガーナ大統領、ブハリ・ナイジェリア大統領、ウアタラ・コートジボワール大統領、カガメ・ルワンダ大統領、ケニヤッタ・ケニア大統領等がサル大統領に祝電を送った(28日 APS)(往電第282号)。

治安関連・社会動静関連

- 特になし。

(外政)

二国間関連

- 2月2日、仏軍艦艇「ミストラル」も参加し、仏軍とセネガル軍合同でダカール沖にて海上警備が行われた(2日 APS)(往電第156号)。

国際情勢・国際機関支援等

- 特になし。

日本関連

- 日本の支援によりゲジャワイに多目的センターが建設された。支援額は1億5180万FCFA。同施設は、若者や女性の人材育成に活用される(6・7日 Le Soleil)。
- 草の根無償資金協力「チエップ市3地区農業井戸及びソーラーポンプ整備計画」G／C署名式が行われた(26日 Le Soleil)。

(経済)

経済一般

- 特になし。

インフラ関連

- 特になし。

【カーボヴェルデ】

- 13日、ガルシア・コレイア副首相兼財務大臣及びコード世銀カーボヴェルデ事業総括は、1千万ドルに上る社会保障政策への支援合意を署名した(13日 rcv)。

- 13日、ガルシア・コレイア副首相兼財務大臣はカーボヴェルデ世銀事務所開設に係る合意を署名した(13日副首相公式 Facebook)。
- 22日から、コレイア首相の招待で、ボストン市長及び Vinny deMacedo 上院議員がカーボヴェルデを訪問し、カーボヴェルデとの国・地方レベルでの関係強化を模索した(25 日 Anacao)。

【ガンビア】

- 6日、医療クリニック建設に係る日本の草の根無償資金協力G／Cが署名された。支援額は70, 964ユーロ。同支援により、ブリカマに医療クリニックが建設され、同地域の医療環境を向上することが期待されている(7 日 The Point)。
- 19日から22日、ビオ・シエラレオネ大統領は国賓としてガンビアを訪問した。両大統領は、二国間関係を強化すること及び国連安保理にアフリカの国が代表されるべきとの考えで合意した(21・22 日 The Point)。
- 27日から28日、バロウ大統領はモーリタニアを公式訪問し、アジズ大統領と会談した。両国間の漁業分野での協力促進及び国際問題についての定期的な協議開催を規定する文書が署名された(27 日 The Point)。

【ギニアビサウ】

- 国民議会選挙に候補者が立候補する政党は、コナクリ合意の一部である「政治安定協定」を署名した。同協定では、署名政党は、国民議会の選挙結果の尊重、コンセンサスによる統治と各種改革を約束した(16日 RFI)。
- 18日、ヴァス大統領は、エドムンド・メンデス氏を内務大臣に任命した(18 日 Lusa) (往電第229号)。
- テレスCPLP事務総長は、ギニアビサウ国民議会選挙に際して選挙監視団を派遣すると発表した(19 日 Lusa)。
- 23日、ポルトガルで印刷された約95万部の投票用紙及び有権者リスト等がギニアビサウに到着し、選挙管理委員会(CNE)に引き渡された(24 日 RFI)。
- 23日、ペクエノ駐ギニアビサウAU代表は、国民議会選挙の監視団として50名の監視員を派遣すると発表した(24 日 RFI)。

(了)